7　クビレヅタ養殖に関する研究－（Ⅱ）
小浜島産クビレヅタの発生について

当真　武

これまで知られているクビレヅタの産地は西表島大原、宮古島久松、トリバーである。[1]今度、八重山群島小浜島において藻場調査中クビレヅタの仲間と思われる海藻を採取し、本場の実験室に持帰り、発生の実験をした。その概要を報告する。なお、野外調査は、筆者の他島袋（以上本場）金本、渡辺（以上八重山支場）の各研究員が共同で実施した。

調査年月日　１９７７年８月３日～１０月

方法はクビレヅタ養殖試験(I)と同様である。

結　果

成熟した藻体が網目状を形成する様子は久松産とほぼ同様であるが、不規則に配列した網目状の形状に久松産と小浜島産ではやや相違がみられた。前者が葉部すなわち球状を覆う比率が少ない比べ、後者の方は網目が太目で明瞭であり、球状を覆う比率が大きかった図２。放出管から、洋ナシ状の遊走子を放出するまで観察した。

考　察

「本種にはvar. typica, var. kilneri, var. longistipitata (WEBER VAN BOSSE 1898), var. condensata (YAMADA 1944), f. parvula (BOERGESEN 1949) の変種及び品種が区別されており、宮古島産（No. 1305）のものはvar. condensata に最も近い性質のものと考えられる。また沖縄島で採集した未査定の種類（No. 1137）がありf. parvulaに最も近いものと考えられるがこれについては検討した後に報告したい。」（香村－１９６２）が述べているように本種はまだ検討すべきことが多いようである。今回、久松産と小浜島産について成熟藻体を中心にして観察したが、両者間には藻体長も小浜産の方はやや小型であること、葉状部の網目模様にやや相違がみられること等から、品種あるいは変種の差があるものと思う。いずれ具体的に検討される筈である。なお、現地付近には他のイワヅタ類も数種生育していたことも付言しておきます。

参考文献

香村真徳（１９６２）、琉球列島海藻知見(I)、藻類１０巻１号。

当真　武（１９７３）、クビレヅタ養殖に関する研究－(I)。本報告書

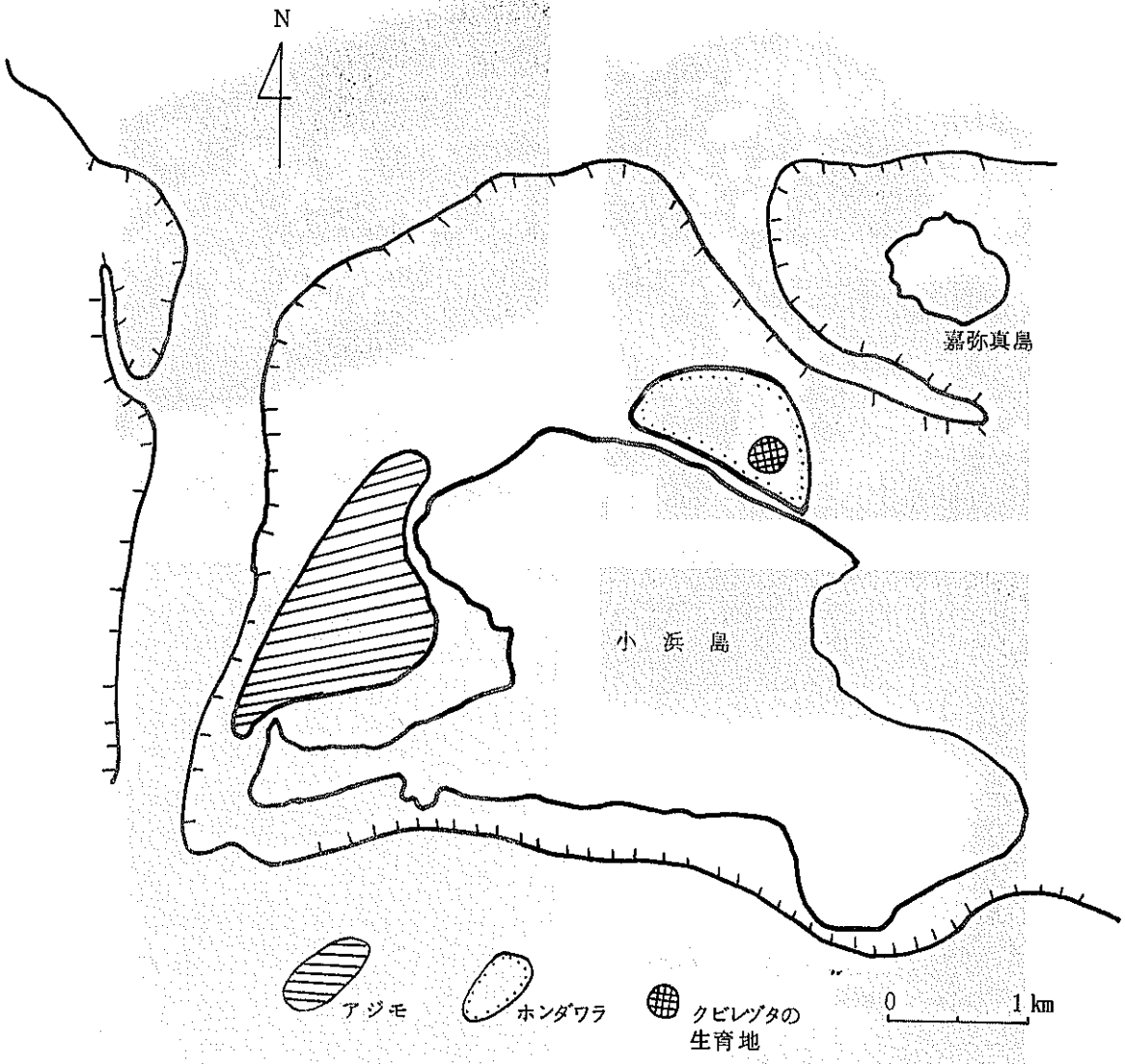
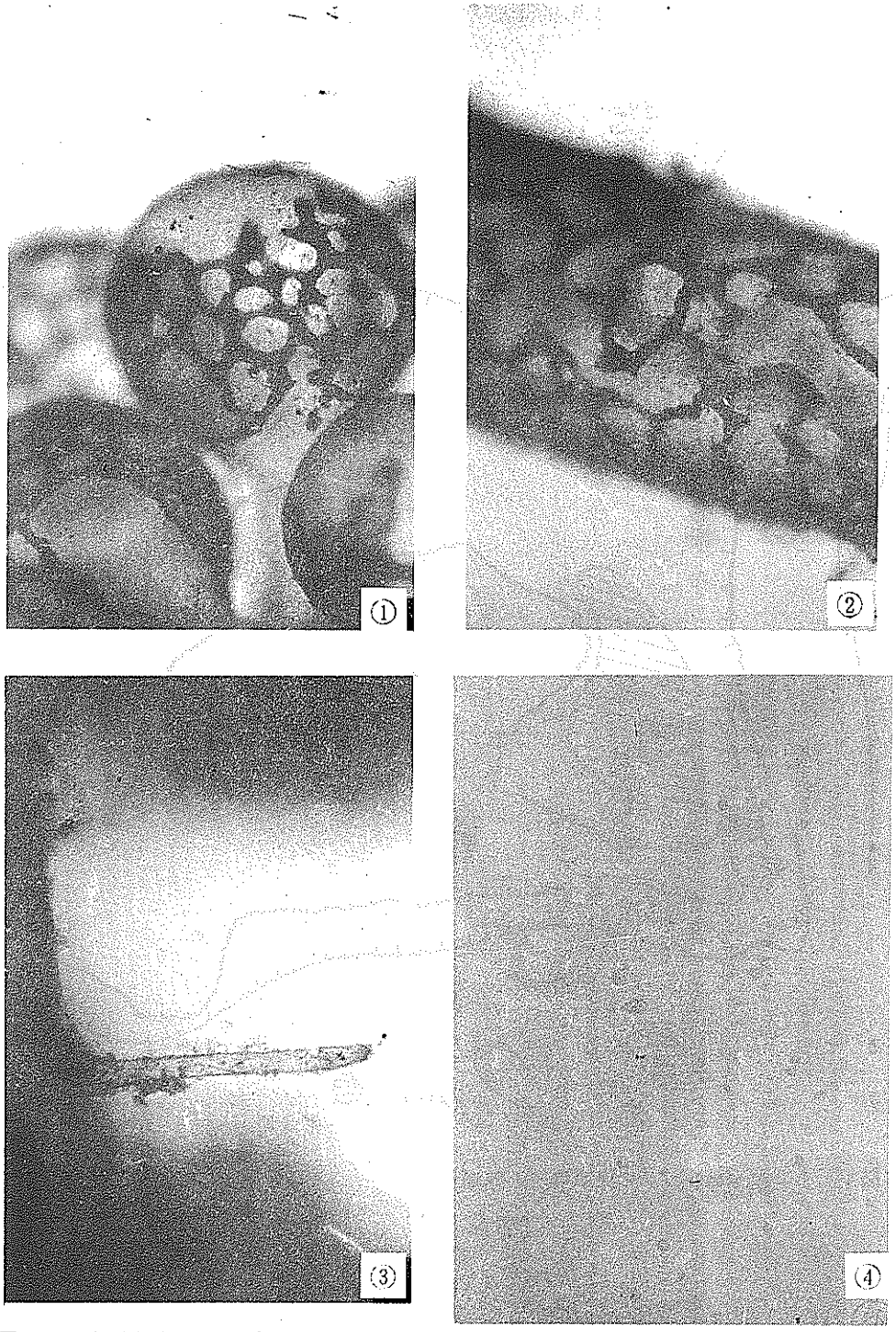


図1　小浜産クビレヅタの採取場所と藻場



図ー2　小浜島産クビレヅタ

① 成熟した藻体ー葉部

② 　　ー茎部

③ 放出管ーPapilae　3～5㎜

④ 放出された遊走子（洋ナシ状）